

## 倫理 シラバス

教材	単位数	対象学年・クラス
教科書：高等学校 改訂版 倫理（第一学習社）	2単位	3学年 普通科 3年1組・2組・3組

### 1, 指導目標

和辻哲郎によれば、「倫」は「なかま」を、「理」は「すじみち」を意味し、「倫理」とは「人と人との間柄の問題」であるという。現代は、対面的な関係を経なくてもとりあえず生活が成り立つ環境になりつつある。それでも、一切の他者との関わりを捨象することが望ましい生の在り方であるとの了解は、一般的ではないと思われる。大きな災害の直後に自殺率が低下する傾向が指摘されるが、人間は死を前にしてもなお、他者とのつながりを求めているともいえよう。

自分とは何か。人間とは何か。生きるとは何か。他者とは何か。望ましい生とは何か。あるべき社会とはどのようなものか。他者とともに生きるとはどのようなことか。先哲が苦闘した問いの一端に触れることを通して、この世界の中にある自分について考えを深め、今後の人生に踏み出していくための手がかりを見いだす場にすることができればと考えている。

授業においては、教科書の内容に対しても教員の説明に対しても、積極的に問いを立てることを促したい。そのための補助具として、英語圏で実施されているp4c（philosophy for children）というプログラムで用いられる「哲学者の道具箱 Good thinker's toolkit」を活用し、教員と生徒の間、そして生徒同士の間で双方向、多方向の対話が生まれる状況を作りたい。

### 2, 評価の観点及び評価方法

	a) 知識・技能	b) 思考・判断・表現	c) 学びに向かう態度
定期考査・臨時考査	40	10	
研究物・レポート・宿題 制作物・実技	10	20	10
学習態度・出席状況			10

### 3, 授業の展開と形態

3年生の2・3組の生徒必修。各クラス単独で行う。

### 4, 学習方法

#### (1) 授業における学習

予習として、授業を行う単元の範囲を読んでおくことが望ましい。

教師の発問に対して積極的に発言・質問する姿勢や、自分なりの問題意識をもって臨むと、より深い理解につながる。

教師の説明や教科書の記述について所与のものと考えず、「道具箱」を用いて、常に問いを發する姿勢が必要である。

授業のワークシートは、空欄の残らないように周囲と協力しながら毎時間取り組む。教員の説明について、余白等に書き留めておく姿勢があるとなおよい。

#### (2) 定期考査に向けての学習

教科書準拠のノート等を活用して、計画的に学習を進めるとよい。

定期考査前の学習は、ただ言葉を覚えるだけではなく、それが意味するものを自分で説明できるように意識したい。

#### (3) NIEについて

長期休業中の課題その他として、新聞を活用した学習も計画している。自らの進路選択等に資するよう積極的に取り組むことが求められる。

## 5, 履修上の留意点

### (1) 履修・修得における注意点

欠課数が年間授業時数の3分の1を超える場合には、履修が認められないので注意すること。ただし、欠課に正当な理由がある場合には、内規に従って補充を行うこともある。

1学期・2学期の評価は100点法で、学年末の評定は5段階で、それぞれ行う。1・2学期の35点未満は単位保留懸念科目となる。学年末で2に満たない場合は、単位保留科目となる。

### (2) 授業における注意点

教科書その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受ける。なお、授業で配布するワークシートを整理するために、各自でファイルを準備すること。

私語や居眠り等、怠惰な態度で授業に参加する生徒については、その都度指導する。

提出物や課題は、期限をきちんと守り提出する。ワークシート同様、成績に加える。

## 6, 年間計画

月	時	単元	学習目標	評価
4	1	オリエンテーション	・授業の進め方や評価について確認する。	c)
4 5	8	第1章 青年期の課題と自己形成 1 よく生きること求めて 2 青年期の課題 第5章 現代の諸課題と倫理 1 生命の問題と倫理課題 2 環境の問題と倫理課題	・「境界人」「心理社会的モラトリアム」「心理的離乳」など青年期を表現する様々な用語について、自分の言葉で説明できるよう理解を深める。また、自らの現状について、これらの知見を用いて考察する。 ・我々の生活を取り巻く倫理課題について、特に「生命」に着目しながら知識を整理する。その上で、「生命」をめぐる問題について自らテーマを設定して意見文を書く。さらに互いに対話をしながら考えを深め、より完成度の高い意見文を目指す。	a) b) c)
5 6 7 8	14	第2章 人間としての自覚 1 ギリシアの思想 2 キリスト教 3 イスラーム 4 仏教 5 中国の思想	・「哲学」という営みの始原とされるギリシア哲学について、基本的な概念を理解する。 ・いわゆる世界三大宗教について、その基本的な特徴について理解を深める。その上で、宗教が人間の生活にとって持つ意味について、対話を通じて多面的に考察する。宗教の異なる人々と、自らの生活圏において共生する方法について、自らの問題として考える。 ・中国の伝統思想について、自分の言葉で説明できるように知識を整理する。また、日本、ひいては自分たちの現在の心性のうちにその影響が見られるか否か、考察する。	a) b) c)
9 10 11	20	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1 日本の風土と伝統 2 外来思想の受容 3 町人意識の目覚めと庶民思想 4 西洋思想との出会い	・「日本」的なるものの特徴とされる思考様式や、それを形作る上で大きな役割を果たした仏教思想の特徴について、理解を深める。また、「日本」の特徴と、沖縄で生きる自分たちとの思考にはどのような共通性・異質性があるのか考察する。 ・儒教の強い影響を受けた江戸期の日本思想の伝統と、そこに衝撃を与えたヨーロッパ思想との関係について、理解を深める。特	a) b) c)

			定の思想家についてまとめ、相互に説明する。	
11	12	第4章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間性、科学的思考、自由と平等など、現代社会の基盤となる思想が近世・近代のヨーロッパでいかにして生み出されてきたかについて理解を深める。</li> <li>・社会主義、実存主義、プラグマティズムなどの基本的な特徴について、特定の思想家を選んで調べ、お互いに説明する。また、これらの思想が19～20世紀の世界に大きな影響を与えた理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a)</li> <li>b)</li> <li>c)</li> </ul>
		1 人間の尊厳		
		2 近代の科学革命と自然観		
		3 自由で平等な社会の実現		
12		4 人間性の回復と主体性の確立		
		5 現代の思想と人間像		
	6 生命への畏敬と社会参加			
1	10	第5章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれ、4つの単元から担当するテーマを選ぶ。協働して調べ、クラス全体に向けてプレゼンテーションを行う。これまで学んできたことをふまえ、テーマと自分とのつながりを意識して取り組む。。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a)</li> <li>b)</li> <li>c)</li> </ul>
		3 家族・地域社会と倫理課題		
		4 情報社会と倫理課題		
2		5 宗教・文化と倫理課題		
	6 国際平和と人類の福祉			